

西特だより

静岡県立西部特別支援学校

令和4年度 第5号

令和5年3月13日

少しずつ お互いが触れ合える機会を

本校の目指す学校像の中に、「保護者、地域、関係機関とともに歩む学校」という目標があります。その目標を達成するために、多くの学校行事があります。

その一つとして学習発表会では、学年・学習グループごと、授業等の学習発表や展示発表・販売学習（図工・美術、作業製品）を行うことで、各学習内容の成果を披露する場と考えています。児童生徒が生き生きと表現でき、それぞれの個性を発揮する場となります。これらの表現がいろいろな人に感動を与え、豊かな心情を育むことができます。

また、修学旅行や校外学習においても、その地域の特色などを見聞きするだけでなく、地域の方との触れ合いにより、小学部の児童、中学部・高等部の生徒それぞれの年代に応じた社会性を身に付けたり、事前学習など自分たちで調べたりすることで、意欲的に学習する姿など主体的に取り組むことができます。さらに、興隆及び共同学習(学校間・居住地)では、大勢の同年代の仲間たちとの交流活動を通して、自分自身を見つめ直し、相手を受け入れ、共生について考えることで、互いの理解を深め合い、社会性や人間性を豊かにする大切な行事です。他の行事においても同じようなことが言えます。改めて学校行事の大切さを実感しています。

ここ3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、保護者の皆様、地域の皆様と触れ合うことができず、十分な活動ができないことがありました。しかし、今後は本校の児童生徒の特性からも、十分な感染症等への対策をしつつ、学校内で行われる学校全体・学部・学習グループの学習だけではなく、児童生徒が校外に出て、地域の方からの話を聞く・地域特有の物を見る触れる・地域で行われる行事やイベントに参加するなど、実際に触れ合える機会を少しずつ増やしていけるように、学校行事の在り方を工夫していきます。

これからも、地域等の皆様とともに、子供たちの確かな成長を感じられる学校を目指します。

副校長 三上英



☆ 学校間交流 ☆ ～小学部と都田南小学校の友達との関わり～

新型コロナウイルス感染症が流行するようになり、3年目を迎えました。この間、交流活動を中止したり、オンラインで画面越しに交流したりしてきました。今年は、実際に顔を合わせて交流活動をしました。4年生は都田南小の友達が本校に来てくれました。障がい者スポーツの「ボッチャ」を一緒に行うと、互いに応援しあったり、本校の児童が使う道具を友達が持ってくれたりしました。それ以外の学年は、スクールバスに乗って都田南小学校へ行ってきました。一緒にダンスをしたり、クイズを出し合ったりしました。

実際に会って交流することで、友達の声や表情がよく見え笑顔になったり、友達同士で関わり合ったりし、より深く関わることができました。

ボッチャのボールを転がすための道具を友達が支えてくれました。



☆ 訪問教育 ☆ ～季節を感じる授業の工夫～

訪問教育には、通学して授業を行うことが難しい児童生徒が在籍しています。御家庭や聖隷おおぞら療育センターに教師が出向き、授業を行っています。現在、在宅生12人、おおぞら生16人、計28人の児童生徒が日々学習を行っています。

訪問教育の児童生徒は、家庭や施設の中で過ごすことがほとんどで外出の機会がとても少ないのが特徴です。そこで、季節の移り変わりや行事などを五感で感じられるように、手触りや匂い、視覚や聴覚に働き掛けるものなど、教材教具の工夫をしています。

さつまいもの甘い香りに思わずにっこり。



ハロウィンの時期には本物のかぼちゃに触りました。



クリスマスのイルミネーション。キラキラできれいだね。

